平成24年度あわら市社会福祉協議会事業報告

Ⅰ　基本方針・重点事業の達成状況

平成24年度は５つの重点事業を掲げて事業活動に取り組んだ。

地域福祉係においては、地域福祉活動計画の策定、成年後見制度への対応を掲げて取り組みを進めた。地域福祉活動計画については、6月29日に第１回策定委員会を立ち上げ、２月27日の答申まで策定委員会を５回開催し活動計画の内容を検討した。また、職員で構成するワーキングチームでは検討会を10回行ない、地区福祉懇談会で出た意見の課題抽出・整理を行い、素案の策定作業を行った。

成年後見制度への対応については、２月から３月にかけて市民後見人養成講座（実務編）を開催し、法人後見支援員候補者の養成に努めた。前年に実施した講座を含め、延べ55時間の養成課程のうち８割以上出席した修了者は16人で、あわら市在住者は10人である。また、受講者有志で立ち上げた勉強会が月１回開催されており、13人が参加している。年度末には福井県に対し定款変更の認可申請を行い、成年後見センターを事業として位置づけた。これにより新年度からはまず法人後見に取り組み、修了者を法人後見支援員として活用しながらノウハウの蓄積に務めることとしている。

法人規則の見直しについては、定款変更と就業規則の改正など９件の規則改正に取り組んだ。定款変更においては事業の追加と所轄庁の変更を行い、就業規則においては関連規則を含め８本を改正、65歳までの雇用延長や労働契約法上の期間雇用への対応等を規定上に明記した。今後は、長年改正を行なっていない規則の見直しを進める必要がある。

次世代職員の育成については、内部研修として公文書作成能力の向上を図る「文書実務研修」等の開催、外部研修では各担当業務の内容を中心に積極的に研修や資格試験を受講させ、それぞれ修了試験や資格試験に合格し、最新の知識・技能を習得させた。

金津雲雀ヶ丘寮については、引き続き安定的に経営するという目標を達成したと考えているが、介護報酬改正の影響や起債償還の本格化を受け、今後報酬算定の見直しを検討する必要がある。また人材確保については、介護職の確保が思うように進んでおらず、引き続き募集している状況である。

Ⅱ　事業実施状況

1．社会福祉を目的とする事業の企画及び実施

(1) 給食サービス事業

○市の委託事業で、月４回水曜日に、市内の 65 歳以上の一人暮らし高齢者および高齢者世帯に対して昼食弁当の配食を行った。（自己負担金 400 円、非課税世帯は 200 円）実施回数は 48 回で、37 人が延べ 1,352 食利用した。

○弁当の調理及び配送とメッセージ作成

調理は市内１業者と、市内の老人施設の委託業者１ヶ所及び給食ボランティア（５グループ 39 人）が担当。利用者へのメッセージはメッセージボランティア（うめぼしの会７人）が、民生委員宅までの配食は配食ボランティア（14 人）が担当した。

・給食（調理）ボランティア　　延べ　149 人
・メッセージボランティア　　延べ　 24 人
・配食（配送）ボランティア　　延べ　408 人

○給食サービスボランティア研修事業

・平成 24 年 10 月 29 日（月）、永平寺町社協の給食ボランティアとの研修会・交流会を開催し、13 人が参加した。
・平成 25 年２月 20 日（水）、理学療法士の吉本與史一氏を招き、「元気を届けるためのリフレッシュ体操」を実施し、配食時の笑顔や対応の大切さと、配食ボランティアを継続していくための体調管理と体操を行った。

(2) 高齢者の生きがいと健康づくり推進事業

○市の委託事業で、高齢者の閉じこもりやうつ、社会的孤立感の解消、自立生活の助長および要介護状態になることの予防を図るため、通所事業は市姫荘・百寿苑を、サロン事業は区民館・集落センターなど地域の集会施設等を活用して実施した。

○内容としては、身近な場所で健康相談、軽体操、レクリエーション、手芸、折り紙などを行うことで、高齢者に体力の維持増進、近隣との交流の機会を提供した。また、介護予防に対する地域活動の育成や支援も同時に行った。

○各事業の実施状況　　（開設回数／延べ参加人数）

種　別	年度	東部・市姫荘	西部・百寿苑	合　計
通所事業	24	51／ 599	42／ 391	93／ 990
	23	49／ 621	44／ 470	93／ 1,091
	22	48／ 610	45／ 534	93／ 1,144
いきいき サロン事業	24	50／ 426	18／ 312	68／ 738
	23	52／ 422	24／ 377	76／ 799
	22	51／ 387	28／ 425	79／ 812
合　計	24	101／ 1,025	60／ 703	161／ 1,728
	23	101／ 1,043	68／ 847	169／ 1,890
	22	99／ 997	73／ 959	172／ 1,956

(3) 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

○平成 20 年度からあわら市社協が基幹社協として福井県社協の委託を受け、専門員（兼務）２人、生活支援員（非常勤）10 人で業務を行った。

○認知症や障害などで意思能力・身体機能の低下した人に対し、福祉サービス利用のための相談や利用手続きなどを行なうほか、預金の出納や日常の支払い等の生活援助を行なった。

○本事業に関わる契約件数

対象者	年度	契約件数	備　　考
認知症高齢者	24	11	○契約件数は、年々増えており、最近の傾向としては、知的障害者の契約が増えている。精神障害者との契約はない。 ○相談に関しては認知症高齢者は地域包括支援センターやケアマネジャーからの相談が多く、知的障害者の場合は施設からの相談が多い。 ○利用者に対し、本事業の利用に基づく生活支援員の派遣回数（一部は専門員が代行）も契約件数と並行して増えており、今年度は 245 回の派遣があった。
	23	11	
	22	7	
知的障害者	24	10	
	23	8	
	22	7	

※昨年同様、外部機関からの情報提供により虐待や多問題家族のケースを取り扱うことが増え、成年後見制度への移行案件（平成 24 年度１件）も出てきた。支援内容の複雑化、対象者の重度化が進んでいる。

(4) 福祉推進員活動

○地区別福祉懇談会において、市の進める災害時要援護者登録制度の利用者を確認し、担当地域内の要介護者・障害者マップの作成作業を通じて区長、民生委員等と情報交換を行った。

○民生委員等の求めに応じ、担当区域内の要援護高齢者等の見守り支援を行ったほか、あわら市健康長寿祭及び共同募金運動に協力した。

(5) 家族介護者交流事業

○市の委託事業で、春はお花見会、秋は日帰りで加賀市の温泉保養施設、冬にはあわら市内の温泉施設でマッサージを行い、日ごろの介護の疲れを癒してしてもらった。定例会は２ヶ月に１回市姫荘と百寿苑で交互に開催しており、介護者同士の交流や介護実習センター講師による介護知識についての学習会を開催し、延べ 54 人が参加した。

(6) 役員会等の開催（理事会、評議員会、監事会）

○理事会　５回

・平成 24 年４月１日（日）　　理事 11 人出席

・平成 24 年５月 29 日（火）　　理事 13 人、監事２人出席
・平成 24 年８月 30 日（木）　　理事 13 人、監事２人出席
・平成 24 年 12 月 14 日（月）　　理事 14 人、監事２人出席
・平成 25 年３月 25 日（月）　　理事 11 人、監事１人出席

○監事会　１回
・平成 24 年５月 22 日（木）　　監事２人、会長出席

○役員視察研修　　平成 24 年６月 14 日（木）、小浜市で開催された第３回赤い羽根全国ミーティングに役職員 13 人が参加し、共同募金運動について各地の新しい取組みを学習した。

○評議員会　４回
・平成 24 年５月 29 日（火）　　評議員 21 人、監事１人、会長出席
・平成 24 年８月 30 日（木）　　評議員 17 人、会長出席
・平成 24 年 12 月 14 日（月）　　評議員 17 人、会長出席
・平成 25 年３月 25 日（月）　　評議員 19 人、副会長出席

(7) 苦情処理の概要

○当会の福祉サービス利用については、法人に苦情解決の担当者、責任者及び第三者委員（２人）を設置しているが、今年度苦情解決の仕組みを活用して処理したケースはなかった。これに関し、新年度からは第三者委員の利用意向がなかったケースについても、全件委員に報告することとした。

２．社会福祉に関する活動への住民参加のための援助

(1) 地区別福祉懇談会の開催

○市内 10 ヶ所において、平成 24 年７月 17 日（水）から７月 31 日（火）にかけて実施。区長、民生委員、福祉推進員、延べ 200 人の参加を得て、社協活動の説明や会費・共同募金の使途説明とあわせ、第７回社会福祉大会について説明。次いで、今年度は地域福祉活動計画策定のため、特に地域毎に地域の現状や福祉課題の検討、災害時要援護者の情報交換を行った。

(2) 生活・介護サポーター活動支援

○平成 21 年度から 23 年度まで、坂井地区介護保険広域連合の委託により生活・介護サポーターの養成を行ったが、平成 25 年度から本事業が当社協に全面委託されることとなり、平成 25 年３月 26 日（火）に開催された生活・介護サポーター研修会に参加した。

(3) 地域ぐるみ福祉教育推進事業

○県社会福祉協議会の補助金を受け、市内の各小学校区、中学校区を単位とする福祉教育を推進した。平成 23 年度から旧福祉協力校事業の後継として実施しているが、各

小中学校による特色ある福祉教育、地域・福祉施設等との交流に取り組んだ。

3．社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成

(1) 第７回福祉大会

○平成 24 年９月 30 日（日）に、あわら市中央公民館において開催した。
表彰式（優良ボランティア功労６人　社会福祉施設功労 12 人　御寄附感謝状２人）の後、「一途」による福祉ライブ演奏と、記念講演を行った。講師には法政大学大学院教授の坂本光司氏を迎えて「障害者が輝き、働く組織とは何か」と題してご講演いただいた。約 150 人の参加を得た。

(2) 機関誌による情報提供（年６回）

○社協だより（Ａ４判４ページ、カラー）を偶数月に発行、社協の各種事業や市内外の情報等を紹介。今年度は２回増ページを行なって会費・共同募金の使途などについて丁寧な説明に留意した。

○ボランティア情報は、社協だよりに折込む方式に改め、３回発行した。

(3) パンフレット等による情報提供

○あわら市社協活動パンフレット（Ａ４判８ページ、カラー）　平成 24 年７月改訂版発行。市社協の主要事業を紹介。

○福祉サービス利用援助事業パンフレット（Ａ４判４ページ、カラーコピー）平成２０年４月に初版発行、若干の修正を加えながら現在まで必要の都度増刷し、市内外の福祉サービス事業者に配布して事業の説明を行ったほか、市役所福祉課・健康長寿課の窓口に配置し相談者等へ配布した。

(4) ホームページによる情報提供

○あわら市社協ホームページ（http://www.awara-shakyo.or.jp/）を引き続き運用した。

○今年度は業者に委託してデザインを一新し、あわせてフェイスブックページの運用も開始した。携帯端末の普及・高度化が進んでおり、今後はこれらメディアの特性に合わせたデザイン・内容の見直しを進める。

(5) 学校へ福祉関係機材の貸出及び総合学習における福祉分野の取組みへの支援

○福祉体験キット（高齢者・盲人・点字体験用）の貸与　中学校１校　小学校４校

○体験用車いす貸与　中学校１校　小学校５校　　車いす体験指導　小学校３校

○講師斡旋　中学校２校　小学校３校

(6) 介護機器の貸出

○介護保険対象外の歩行困難者について、車いすを貸与したほか、怪我をした児童や介護保険利用者には、学校内の移動や旅行等で短期間必要な場合に車いすを貸与した。

利用回数は30回である。

4．保健医療、教育その他の社会福祉と関連する事業との連絡

(1) 県社協との連絡調整

○災害時相互支援協定に基づき、県内すべての社協が参加して、災害時対応の初動態勢について検証。7回目となる今回は「遠隔地社協」をなくし、県内3ヶ所で同時に「被災地社協」「周辺地域社協」を設定して訓練を実施、あわら市は大野市を被災地とする嶺北北部の訓練に参加。平成25年1月19日（土）AM7：00に地震災害が発生したとの想定で、被災地社協－県社協－周辺地域社協の情報伝達について訓練を行ない、被災地社協に赴いて災害ボランティアセンターの運営訓練を行った。（この他、開催準備のため、実行委員会に3回参加）

(2) 生活福祉資金・離職者等生活支援資金貸付相談事務

○現在の貸付件数は28人38件である。　（平成25年3月31日現在）

年度	貸付件数	貸付合計額（円）		
		元金	貸付利子	合計
24	38件	45,886,000	369,790	46,255,790
23	46件	55,680,000	510,040	56,190,040
22	61件	72,199,000	770,352	72,969,352

○資金種別毎の貸付状況は以下のとおり。　（平成25年3月31日現在）

資金名称	年度	取扱人数	資金名称	年度	取扱人数
総合支援資金	24	0	生活資金	24	0
	23	0		23	2
	22	0		22	2
教育支援資金	24	16	療養介護資金	24	1
	23	19		23	1
	22	26		22	2
住宅資金	24	1	緊急小口資金	24	0
	23	1		23	0
	22	2		22	0
福祉資金	24	2	離職者支援資金	24	2
	23	2		23	3
	22	2		22	3
			合　計（人）	24	28
				23	28
				22	37

○貸付に関する新規の相談は39件あったが、すべてが貸付要件を満たせず申込みに至らなかった。高齢や慢性疾患のために就労できずに生活困窮に陥り、以前からの借金もあるため償還の目途が立たない、といった相談が多く、生活状況を丹念に聞き取って

自己破産の手続きなど他機関や他制度を紹介する等の対応をとった。

○年度末現在、１年間以上の長期滞納者が３人(前年比△４人)であった。丁寧な償還指導を行い、長期滞納者は減少している。また、行方不明や時効に係るケースは、県社協が職権により償還免除を行った。

○収入があっても家計運営が上手くできずに生計維持が困難になる等、金銭管理が必要と思われる世帯からの相談については、日常生活自立支援事業や成年後見制度等を絡めた複合的な相談支援を行い、世帯の自立更生に向けて積極的な援助を行った。

５．ボランティア・市民活動の振興

(1) ボランティア連絡協議会正副会長会議

○平成 24 年５月８日（火）市姫荘において開催し、当年度の事業の進め方について協議した。

(2) ボランティア情報誌の発行（年３回）

○６月、10 月、２月にボランティア情報誌「Ｙｏｕ！」（Ａ４判カラー１ページ、社協だより折り込み）を発行、ボランティアの活動状況、ボランティア募集、ボランティア紹介記事を掲載し、市内全戸に配布した。

(3)サマーボランティアスクールの開催

○市内２中学校及び金津高校の生徒 60 人が参加し、８月４日（土）から 24 日（金）まで市内１０ヶ所の福祉施設においてボランティア活動を体験し、福祉活動への理解を深めてもらった。

(4)話し相手ボランティアフォローアップ研修会及び交流会

○平成 24 年１０月 28 日（日）　大野市「結とぴあ」にて実施し、８人が参加した。

講師　藤田正一氏によるフォローアップ研修

大野市社会福祉協議会話し相手ボランティアとの交流会

(5)ボランティア団体の定例会(連絡調整会議)の開催

○傾聴ボランティア　　４回

○折り紙ボランティア　４回

(6)ボランティア活動保険の取扱い

○各団体から保険加入に関する相談に応じるとともに、加入要請に応じ手続きを行ない、319 人が加入した。

(7)災害ボランティア関係

○平成 24 年８月 21 日（火）市姫荘においてあわら市災害ボランティア連絡協議会開催

し、区長代表、民生委員・児童委員代表、福祉推進員代表、消防署、市役所担当課など 15 人参加し、市の防災訓練に合わせた災害ボランティアセンターの設置訓練について協議した。

○平成 24 年９月５日（水）金沢市において行われた、北陸ブロック社協の災害支援活動合同研修会に職員２人を派遣、陸前高田市の岩渕次長を迎え、被災地社協から見た当時の状況を聞くと共に、北陸ブロック社協の活動を振り返り、社協の支援のあり方について討議した。

○平成 24 年９月２日（日）、あわら市総合防災訓練が伊井地区を対象に行われ、理事、職員及び登録ボランティア等 18 人が、トリムパークかなづグラウンドにて災害ボランティアセンター開設訓練に参加した。

○平成 24 年 11 月１０日（土）テクノポート福井で開催された福井県総合防災訓練において、ボランティアセンター立ち上げ訓練に職員２人を派遣。訓練は、被災地である坂井市社会福祉協議会を中心に運営され、あわら市社協と福井県社協が応援に入る形で行われた。

６．心配ごと相談事業の開設

(1) 心配ごと相談所の運営・相談員研修の実施

○老人福祉センター市姫荘・百寿苑のいずれかで、月曜日または水曜日（祝日・振替休日を除く）に開設した。

年度	開設回数(回)	利用者数(人)
24	44	10
23	45	7
22	43	7

○研修は、市内で悪質商法による被害が出ているとの情報を受け、福井県消費生活センター（アオッサ７階）で、相談事例についての講義や、商品テスト等のセンターの活動について学習した。

(2) 無料法律相談所の開設

○市姫荘と百寿苑で、毎月交互に開設し、弁護士が相談を受けた。

年度	開設回数(回)	利用者数(人)
24	12	73
23	12	71
22	12	69

○相談件数は昨年度に比べ２件増で、開設日前の予約は、ほぼ定員一杯の状態であった。同一の人が同じ相談内容で何度も相談を受けるといったことがあり、詳しい相談や弁

護士の受任が必要なものについては、有料相談や福井弁護士会を紹介した。

※結婚相談所は、婦人福祉協議会が市姫荘を会場に19回開設した。

7．あわら市老人福祉センター「市姫荘」及び「百寿苑」の受託管理

(1) あわら市老人福祉センターの利用状況　（単位：人）

利用目的	年度	市姫荘	百寿苑	計
定期利用（利用日）	24	1,274	1,063	2,337
	23	1,464	1,268	2,732
	22	1,684	1,320	3,004
一般利用者	24	2,310	4,153	6,463
	23	2,337	4,297	6,634
	22	4,098	4,050	8,148
クラブ活動	24	2,360	5,338	7,698
	23	3,108	5,515	8,623
	22	3,083	5,287	8,370
会議等	24	4,650	519	5,169
	23	3,675	681	4,356
	22	3,639	572	4,211
計	24	10,594	11,073	21,667
	23	10,584	11,761	22,345
	22	12,504	11,229	23,733

8．共同募金配分金事業

(1) あわら市共同募金委員会の運営

○例年、委員会は3回程度開催しているが、委員から共同募金運動の方法や各事業等の改善を図りたい、また他の市町村共同募金会がどのように募金運動を展開し実績を上げているかを検証したいとの意見があり、委員会を多く開催すると共に研修会を企画した。

○委員会5回

・平成24年5月29日（火）　委員12人出席
・平成24年6月21日（木）　委員14人出席
・平成24年7月17日（火）　委員12人出席
・平成24年12月14日（金）　委員14人出席
・平成25年3月25日（月）　委員11人出席

○研修

・平成24年6月14日（木）に、「第3回赤い羽根全国ミーティングｉｎ小浜」が小浜市で開催され、委員及び職員13人が参加した。

○共同募金運動（10月1日～12月31日）を行い、募金総額は8,228,103円であった。街頭募金を増やすなど募金方法の改善を図って実施した結果、募金額は前年比約

2.3%減少率しているが、持ち直しの兆しが出て成果が見られた。しかし、不況などで目標額の達成は厳しく、今後も募金運動に住民の理解と協力を得るための取り組みが一層必要と感じている。

○災害義援金受付

・東日本大震災義援金は昨年から引き続き受付を行い、平成25年3月末までに38,816円（あわら市社協受付分）を送金した。

・茨城、栃木県竜巻災害（5月）、九州北部豪雨災害（6月）、京都南部豪雨災害（8月）については、募金箱により運動を行い、計3,928円を送金した。

(2) 地域支え合い事業

○中番区において、そば打ち体験などを通して、区民や高齢者と子どもの交流が深まり、地域福祉の向上に役立った。

○助成額　150,000円

○活動回数　　7回

○参加人数　延べ232人

(3) 各福祉団体、ボランティア、ＮＰＯ、施設活動助成

平成24年度受配団体（平成23年度募金運動による配分）一覧

団体名		助成額（円）
1	あわら市コスモスの会	50,000
2	おひさまくらぶ（旧ハンディをもつ子と親の会）	15,000
3	音訳の会柿の実	50,000
4	あわら地区更生保護女性会	20,000
5	あわら市婦人福祉協議会	25,000
6	あわら市赤十字奉仕団	20,000
7	あわら市連合婦人会	20,000
8	あわら市子ども会育成連絡協議会	70,000
9	社会福祉法人聖徳園	40,000
10	あわら寺子屋	80,000
11	特定非営利活動法人グリーンウェル	150,000
12	あわら市おもちゃ病院	30,000
13	あわら市老人クラブ連合会	450,000
14	あわら市身体障害者福祉協会	180,000
15	あわら市心身障害児者育成会	180,000
計		1,430,000

(4) 児童遊具新設・修繕助成事業

○遊具新設１件　南稲越区 200,000 円（すべり台）

○遊具修繕４件　上八日区 50,000 円（ブランコ）、井江葭区 43,575 円（ブランコ）、伊井区 50,000 円（ジャングルジム）、堀江十楽区 42,525 円（ブランコ）

(5) 寝具クリーニングサービス事業

○概ね 65 歳以上の単身世帯及び高齢者のみの世帯で、高齢による体力の低下や心身の障害により寝具類の衛生管理が困難な方を対象に、寝具の丸洗いサービスを実施した。

○布団ひと組と毛布１枚の標準的な組み合わせの場合利用料は 2,700 円で、このうち 270 円が利用者の負担、残り 2,430 円について共同募金の配分を受けた。

実施日　平成 24 年８月７日（火）～10 日（金）

年度	利用者数(人)	利用点数(枚)	助成金額(円)
24	68	189	161,025
23	64	181	160,242
22	60	177	159,510

(6) 福祉教育推進校助成事業

○金津高校の生徒が、ＪＲＣ部を中心に赤い羽根共同募金の募金活動や、ボランティア活動に取組んだ。

(7) 旅費遺失者援護事業

○旅行中に旅費が尽きた人に、旅費の一部を貸与する事業である。

年度	利用者数(人)
24	18
23	27
22	27

(8) 緊急生活援助事業

○生活困窮状態だが、自ら生活を立て直す努力をし、概ね１ヶ月以内に生活を立て直す目処がついている者(世帯)を対象に、20,000 円を限度として食料費及び水道光熱費の代金を給付するものである。

○同様の貸与事業を実施している社協は数多くあるが給付型で実施しているのはあわら市のみで、利用の申込みは大半が生活保護の受給相談・給付申請と同時に行われており、現金を手にするまでのつなぎとして活用されている。

○この事業は平成 21 年９月にから実施しているが、３年を経過し通院経費に充てられないことや多人数家族への対応などの課題が出てきている。

年度	利用者数(人)	相談支援回数	金額(円)
24	20	40	317,000
23	5	14	74,000
22	11	15	185,416

(9) 歳末たすけあい募金助成事業

○援護金助成事業・・・生活困窮世帯70世帯へ慰問金を配分した。

○活動助成事業・・・児童福祉施設を除き、市内の社会福祉施設が年末年始に行う行事にかかる事業費を助成するもので、申請のあった障害者福祉施設4施設に助成した。いずれの施設も、外部の人とのふれあう機会が提供できるとして、大変喜ばれている。

○育成助成事業・・・市内の児童福祉施設及び母子福祉施設に対し、クリスマスの時期にあわせて計1,170個の菓子を配布した。共同募金クリスマスカードを同梱し、保護者等への赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金の普及啓発を図った。また、この菓子の調達は障害者就労支援施設へ依頼し、障害者の自立支援に寄与するとともに、乳幼児に配慮した安心安全な原材料を使用した。

(10) 災害見舞金　　火災1件（平成24年9月17日　春宮2丁目）

9．その他この法人の目的達成のため必要な事業

(1) 産業医の指導

○産業医による労働環境・職員保健指導を延べ10回実施した。

○職員構成の高年齢化に伴い、定期健康診断結果の有所見率が上がっている。産業医とも相談の上、協会けんぽの提供する個別指導プログラムの利用を推奨、協会けんぽが抽出した5人が個別指導プログラムに取り組んだ。

(2) 県社協事業への協力・参加

○平成24年10月13日（土)、第59回福井県社会福祉大会（ふくい･つながりフォーラム）が福井県生活学習館ユーアイふくいで開催され、役職員など合わせて12人が参加した。

○平成24年11月11日（日)、県内社協会長会が主催する「東日本大震災被災地復興応援企画」に職員1人を参加させ、発災から1年半が経過した現地の状況を確認した。現地は依然復興が進んでおらず、地域コミュニティが深刻な影響を受けている様子であった。

○県内社協会長会、県内社協戦略会議に出席、最新情報の収集と県内社協間の情報交換、共通課題の検討を行った。

○県社協主催の地域福祉推進研究会に検討委員として職員1人を派遣、社協事業・組織強化分科会（6回開催）に参加した。今年度この分科会では、社協職員の生涯教育について討議が行われ、新年度も引き続いて行われることとなった。

平成24年度　あわら市金津雲雀ヶ丘寮事業報告

Ⅰ　総括

社会福祉法人および社会福祉協議会として「法令遵守」「地域貢献」を重視し、利用者および家族が「安心・安全」の生活が送れるように“人間性豊かな心あるサービス”の提供に努めた。また、看護職員を増員し利用者の医療的ケアの充実を図った。

Ⅱ　重点事業

1. 入所者、利用者に対してサービスの向上を図るために、職員が積極的に研修等に出席し資質の向上に努めた。

外部研修　142回　（延べ参加者数　272人）
内部研修　60回　（延べ　〃　505人）

2. 高齢者および障害者の在宅支援事業の展開を図り、高齢者等が「住み慣れた家・地域」で生活が継続できるようインフォーマルサービス事業の拡充のために、「地域包括支援センター、民生委員および各居宅介護支援事業者等」と連携を図り在宅支援に努めた。

（1）移送サービス事業
利用登録者数　40人　（延べ利用者数　526人）

（2）毎日型給食サービス事業
利用登録者数　46人　（延べ利用者数　7,076人）

（3）各種ボランティア団体および地元学生の福祉教育のための実習生を積極的に受け入れた。

Ⅲ　各部署の報告

＜管理係＞

経営基盤強化および経理事務の効率化に努め、安定した経営に努めた。

＜在宅介護係―居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業＞

在宅支援の要と位置づけ、介護計画に基づき常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めた。

＜施設介護係―特別養護老人ホーム、短期入所生活介護事業＞

家庭的な雰囲気のもと、人間性を尊重し個々の有する能力に応じた日常生活を営むことができるように努めた。

＜養護係―養護老人ホーム、特定入所者生活介護事業＞

本人の意思および人格を尊重し、入所者一人一人の処遇計画を作成し、自立した日常生活を営めるよう支援に努めた。

＜在宅介護支援センター＞

地域包括支援センター等の関係機関と連携を図り、在宅支援のための相談業務、インフォーマルサービス展開を実施した。

また、あわら市および坂井市と連携を図り、緊急一時保護者等の受入れを実施した。

緊急保護　　５人（あわら市１人、坂井市４人）

被虐待者保護　２人（坂井市２人）

Ⅳ　その他

１．各種委員会においては２ヶ月ごとに開催し、専門チームで課題の解決を図った。

○給食委員会、研修委員会、接遇・処遇委員会、衛生・感染予防委員会、事故防止委員会

利用者が安心して生活ができるように改善策を検討し、速やかに改善を図った。

○環境美化委員会

利用者の住みやすさ、および職員が勤務しやすい環境整備に努めた。

○広報委員会

広報誌およびホームページを活用し、情報発信に努めた。

○入所判定委員会

市担当課長・市社協局長の同席のもと、特養施設判定基準に基づき公正に入所判定の検討を図った。

○経費削減委員会

定期的に光熱水費の料金を確認し合い、全職員に節約の周知に努めた。

２．毎月の係長会議および主任会議等で、課題解決および当月の目標を確認し合った。

３．養護老人ホームにおいては、入所者同士のコミュニケーション及び身体機能維持向上を目標に各種クラブ活動を実施した。

（生け花、手芸、習字、民謡、カラオケ、レクレーション、ゲートボートボール等）

４．年間行事

利用者が楽しく生活ができるように各種行事を実施した。

	行事等		行事等
４月	お花見 買い物会 誕生会	10 月	総合消防訓練 健康診断 慰安旅行（日帰り） 老施協ゲートボール大会 市健康長寿祭 シルバークッキング 誕生会
５月	慰安旅行 買い物会 バーベキュー会 誕生会	11 月	芦親会（舟盛り実演） シルバークッキング 誕生会
６月	運動会 菖蒲園見学 金津小児童慰問 誕生会	12 月	クリスマス会 忘年会 餅つき慰問 シルバークッキング 誕生会
７月	七夕 買い物会 金津祭り 健康診断 夏祭り 誕生会	１月	新年祝賀会 七草 喫茶 シルバークッキング 誕生会
８月	買い物会 喫茶 誕生会	２月	節分 ふるさとの日（映画鑑賞） 針供養 誕生会
９月	買い物会 長寿祝い 追弔法要 喫茶 シルバークッキング 誕生会	３月	ひな祭り 寿会総会 家族会総会 喫茶 シルバークッキング 誕生会